

創立110周年記念開催

平成27年11月7日(土)・8日(日)



発行者
岐阜県立中津高等学校
同窓会

題字は額康雄校長 (30回生)
タイトルバック 滝川英明
(中津川市在住 20回生)

創立110周年記念式典

中津高校体育館
左上は三尾同窓会長挨拶
(詳細な内容は4P)



発表された「中津高校校訓」

(詳細は4P)



佐藤財務委員長

額康雄中津高校校長

杉本実行委員長

三尾同窓会長

岐阜県教育委員会
月村時子様

岐阜県高等学校協会副会長
浅井正美様

中津川市長
青山節児様

岐阜県議会議員
平岩正光様



校歌斉唱



司会の男子生徒

司会の女子生徒



旧職員へ感謝状贈呈

前同窓会役員へ感謝状贈呈

PTAより記念品贈呈

中津高校生徒代表



進行の田島氏 (25回生)

スーパーバイザーの中西氏

旭陵留学生との語らい
パネル
ディスカッション
中津高校体育館
(詳細は5P)



ディスカッション後の記念撮影

撮影：朝日美智子 (25回生)



同窓会・生徒・教員が一体となって
創立百十周年記念事業を開催

校庭の木々の秋色が深まる中、岐阜県立中津高等学校は創立百十周年記念式典の日を迎えました。十年前百周年という大きな歩みを刻んでから、さらに十年、今年百十周年という新たな一歩を刻むことになりました。

中津高校は百十年の長い歴史の中で、守るべきものは守り、変えるべきものは変え、その姿も幾多の変遷を重ねてきました。かつて農業科が併設されていた頃にあった農場は、今はプールとテニスコートになり、木造校舎から鉄筋コンクリート校舎へと変わりました。

さらに平成二十二年には二棟の新しい校舎も完成しました。体育館も改築を重ね、今は二階建ての立派なものになっていく予定です。校舎施設だけではなく、現在は単位制普通科高校となり、新しい時代に対応すべく新生中津高校として歩み始めています。今回百十周年の募金活動を進める中、一万円の現金とともに一通の手紙が寄せられました。かなり高齢の方からの手紙のよう、で「一字一苦勞しながら書かれた手紙が伝わってくるものでした。その手紙には「車椅子で

酸素生活、そして背骨を骨折し歩けない生活で、ヘルパーさんは寄付金の振り込みをしてくれませんか。ドライアイで文字もよく見えず、そちらで振込用紙を書き直して、郵便局で振り込んで下さい。よろしくお願いいたします。：中津川に移り住んで十年で父はなくなり、私も十年、高校卒業して四年中津川に住んでおりましたが、今はふるさとを離れて暮らしており、中津川・恵那山の写真を飾って毎日眺めております。」といった内容がしたためてありました。こうした同窓生の思いが込められ、そしてその百十年がいかに重いものであるかを実感いたしました。

式典当日は、朝から生徒たちが駐車場係、受付、案内、接待と活躍してくれました。式典も生徒が司会を務め、立派に式を進行してくれました。その他、ホームカミングデイの案内役やギターマンドリン部演奏など各方面で活躍する生徒の姿や生徒の取り組みをまとめた掲示物を、来賓の方々に見ていただき、多くの方からお褒めの言葉をいただきました。生徒が中心となつて創り上げる中津高校を多少なりともご理解いただけたのではないかと感じております。

今回の百十周年記念事業では、記念式典を始め、記念コンサート

ト、芸術展、合同同窓会、旭陵ゴルフコンペなどの実施、さらには校訓の制定などを行いました。その中でも、太陽光発電所の設置は大きな事業としてとらえることができます。発電所の設置によつて、毎年二名の旭陵留学生を派遣できることとなりました。こうした百十周年記念事業を無事行うことができたのも、同窓生の方々の物心に渡るご理解とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。こうした皆様の気持ちに込められるよう今後も同窓会として母校中津高校を支えてまいりたいと思います。

(文責 松本 詠史 30回生)



ホームカミングデイ
中津高校内を案内しました。(詳細は4P)

受付
創立110周年記念式典
中津高校玄関



↑生徒達による、受付風景
受付後、控え室に案内する生徒→
←ホームカミングデイの最後は
ギターマンドリン部の演奏会



「交響詩・中津川」演奏会
中津高校吹奏部とOBによる
中津川文化会館 (詳細は5P)

司会の稲葉浩氏
(東海ラジオアナウンサー)

指揮者へ花束贈呈
高橋俊和氏 (32回生) 安江忠城氏 (12回生)

創立100周年で作曲・演奏された「交響詩・中津川」を、吹奏楽用に編曲され、再演奏された



110周年記念
143名参加の
旭陵ゴルフコンペ

上 男子優勝の岸良雄氏 (11回生) 下は女子優勝の小川里子氏 (29回生) (詳細は5P)

笠木茂氏 (3回生) 閉会のことば

沢山の同窓生や市民が訪れた会場

芸術展
同窓生・旧職員・現職員による
中津川駅前「にぎわいの広場」五階
(詳細は5P)



**110周年記念
合同同窓会**
パレティール手賀野にて

みんなで「青い山脈」合唱

三尾同窓会長の挨拶で開宴

各支部役員、本部役員、全員で校歌斉唱



万歳三唱で閉宴

百十周年記念事業



中津高等学校同窓会会長
二尾 義彦(12回生)

我母校、岐阜県立中津高等学校の創立百十周年記念式典及び記念事業が、無事計画通り終了しました。

私にとりまして平成二十七年十一月七日(土)～八日(日)という日は、生涯忘れることのない日になるでしょう。

杉本潤実行委員長を始めとする実行委員会の皆様、田中栄吉前校長、額額雄現校長、多数の先生方、関東OB会長石黒広洲様、関西旭陵会長加藤統一様、名古屋地区会長古井良平様、多数の同窓生の皆様の御尽力、誠にありがとうございました。



素晴らしい中津高校と伝統

中津高等学校長

額額 康雄(30回生)

昨年四月一日から初めて母校に勤務させていただいております。四月の始業式で久しぶりに生徒が歌う校歌を聞いたときには、何とも言えない感動を覚え、長らく歌わなかったにもかかわらず歌詞が次々と浮かんできました。中津高校に勤務した歴代の校長先生方から校歌の素晴らしさを讃える話をよく聞きますが、私も本校の校歌の素晴らしさを再認識しました。

達もそういう人になりたいと思う。第二には、留学する前は日本の閉鎖的で堅苦しい日本や郷土があまり好きではなかったが、留学を通じて真の国際化とはむしろ自国のことをもつと知ることではないのか。日本のことを知らなくては、他国のことを理解するのは到底無理だ。国際化というのはお互いの国の歴史や良いところ、悪いところを認め、他国で生活したことにより、日本人としての自覚が生まれた。離れてみて初めて日本の親や友達の大切さが分かった。自分がどれだけ周りに支えられているのか改めて実感した。

第三に努力の大切さ。努力しなければ何も変えられないし、人としても成長できない。他国の人のハングリ精神の旺盛さに刺激を受け、彼らに負けない様に頑張りたい。旭陵留学制度の目的の一つが「グローバル」な人材を育てることですが、私はこの留学を経験して日本や中津川を世界的な視野で見て郷土中津川に貢献できるリーダーになりたいと思う。

津川に貢献できるリーダーになりたいと思う。そして自分の原点である中津川に貢献したいという留学生もいました。

これらの発言は、私にとつて望外の喜びであり、これからも彼等の人生を見送っていききたいと思っています。

校訓については、「自由と個人の尊厳・思索と自己の完成」と決まりました。大変立派な校訓になったと校訓制定委員会の皆様、特に吉川光彦議長には深く感謝申し上げます。

現在は戦前の日本帝国時代と変つて民主主義で自由に発言できる時代です。個人の尊厳も憲法でしっかり守られています。ただ、あまりにも日本が自由で安全なため、深く未来の日本の世界を考えず時代に流される傾向が多くみられます。更には十八歳から選挙権が与えられる様になり、高校生も立派な社会人としての自覚が必要であります。深く世界の流れを勉強し思索して行動することが求められるで

しょう。この校訓は中津高校生にとって必要条件であり、素晴らしいものだと思つて賛同します。

また、記念事業の中で現役の吹奏部及びOB会百十名の合同演奏会「交響詩中津川」は大変素晴らしい感動でした。校歌をモチーフとした池辺晋一郎先生の作曲を見事に演奏され、その校歌の中から先の校訓が決まり、あかかも校訓の披露会の様でありました。

七日(土)夜六時三十分より行われた合同同窓会においては、昭和二十三年卒の中津高等学校卒業生の方二名、中津高等学校一回生から五十八回生までの方々百六十余名の皆様が参加されました。そこで校訓の披露や校歌の斉唱等がなされ、母校の更なる発展と同窓生としての団結が確認されました。この歓談の中で吹奏部OBの演奏もあり、場を盛り上げていただきました。翌八日(日)にはユグリーングルクラブで四十組の記念ゴルフコンペが盛大に行われました。東京や大阪、名古屋の同窓

生も参加され楽しい一日でした。更には七日(土)～八日(日)にぎわいプラザにおいて、中津高校の同窓生や現旧職員による絵画や書等の芸術展が行われました。

尚、学校の生徒会においては、百人プロジェクト運動が計画され「挨拶運動」「百人清掃運動」「百人地域紹介」等の地域社会貢献運動が行われました。

が行われました。百十周年を契機に「光明と希望に燃えて」郷土を思い「未見の我を見て」自己啓発できる母校の更なる発展と有為な人材が育つことを祈っております。

百十周年記念事業への御礼



創立百十周年
記念事業実行委員長

杉本 潤(20回生)

により、全ての事業が順調に進んでいること、心から感謝申し上げる次第であります。

中でも、将来に向かっての中津高校の教育の一つの柱となるであろう旭陵留学制度につきましても、百周年から継続して、後半の五年間は一部の方に奨学金の協力を頂いて実施をしてまいりましたが、他に類を見ない先駆的な取り組みとして全国的にも注目されるまでに至りました。今回、百十周年の記念事業として、中津川市のご協力により設置場所の提供を受け、ソーラーシステムを設置しました。その設備からの売電料金を留学生制度の原資として活用することで、今後二十年間の浄財が確保出来る見込みとなりました。

また、中津高校の歴史ある文化面の発表という点では、吹奏部のOB、OG、現役による演奏会です。文化会館は多くの人であふれ、心に残る演奏会となりました。来場された皆様にも満足いただけるものと確信しております。ふれあい会館では卒業生の芸術展を行い、多くの市民の方に足を運んでいただきました。

結びに、愛すべき母校、中津高校が、百二十周年、また、更にはその先を見据え、これからも特色ある地域の代表校として益々発展されますこと、併せて同窓会会員の皆様として関係各位の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、百十周年記念事業に対します心よりの感謝と御礼のご報告とさせていただきます。

平成28年版 名簿発行のお知らせ

このたび、平成28年版同窓会名簿を発行する運びとなりました。同窓生の皆様には、名簿掲載内容の確認はがきや名簿購入の案内状を送付して作業を進めてまいりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

- 名簿発行日：平成28年10月下旬
- 体 裁：A4版(約520頁)
- 名簿価格：4,650円

名簿作成委託先
このたびの名簿作成は、正式な同窓会事業として株式会社サラト(兵庫県姫路市)に委託しております。
株式会社サラトのホームページ
<http://www.salat.co.jp>

110周年記念誌 販売のお知らせ

申し込み先着順に200部販売致します。

申し込み方法

1. 学校で直接購入する場合
2000円で販売します。担当職員へ連絡下さい。
2. 現金書留で申し込む場合
返送先の郵便番号・住所・氏名・連絡先電話を明記のうえ、現金書留で2500円をお送り下さい。
記念誌代2000円、送料500円となります。

連絡は 電話 (0573) 66-1361 (中津高校)

A black and white portrait of Professor Shigeo Kawai. He is an older man with short, light-colored hair, wearing glasses and a dark suit jacket over a white shirt. He is looking directly at the camera with a slight smile.

百十周年記念事業
財務委員長・定時制同窓会長
佐藤 和男（定15回生）

創立
百十周年
記念
記念式典
中津高校教諭
藤原 高
(23 回生)

生徒会執行部の山本君により掲げられた母校中津高校の校旗が体育館後方の扉から堂々と入場を果たす。吹奏楽部の奏でる行進曲が式典に花を添えた。

本校の発展のためにご尽力を頂いた物故者の方々に対して三十秒間の黙祷が出席者約七〇名全員でささげられた。

ら開始された旭陵留学制度により四十名の生徒がアメリカ・カナダ・イギリスに派遣されている。彼らは同窓会主催の認定式において三尾会長の励ましの言葉を受けて、一年後の帰国報告会において出席者の前で留学の成果を堂々と発表している。彼らのこれからの成長ぶりも楽しみで

（20回生）様に、行方不明の村長の木下久太郎（20回生）に、
記念式典の開会宣言がなされた。その後厳かに国歌歌唱に移る。

三尾義彦同窓会長（12回生）は、式辞の中で創立者である間翁スピリットに触れられた。間翁が日露戦争の平和回復記念として、この旭ヶ丘の土地と校舎を用意するだけでなく、二十年分の運

額康雄校長（30回生）は、生徒を積極的に地域に派遣し日々の学習は勿論、部活動や旭陵祭各種のボランティア活動を通じて課題を発見する力やコミュニケーション能力を高めて世界へ羽ばたく人材や地域で活躍する人材を育成したいと結ばれた。

岐阜県教育委員の月村時子様

災害時に停電した場合
は非常用電



約を結んでいます。

大勢の方々のお力で旭陵留学制度が運用継続されていることを実感しました。お世話になりました。本当にありがとうございます。

記念事業の記念式典をはじめ
合同同窓会、芸術展、再演奏会
ゴルフコンペなどは、厳しい財
政状況をご理解いただき、ご協
力を賜りました。ありがとうございました。

好の機会だけではない。いつしか老いて集まれば、そこには困難を幾つも乗り越えながらそれを力に変えている仲間がいる。生涯青春の友がいる。この意味で、同窓会は未来へ向かう新たな道程である。校歌は「昼夜を止めざる流動」と歌う。

百十周年記念事業の一つとして、校訓の制定が掲げられ、記念式典の中で「自由と個人の尊厳・思索と自己の完成」に決定したことを報告いたしました。

現在まで中津高校には正式に定められた校訓というものがなく、それに準ずるものとして「自由と個人の尊厳」の文言が使われてきました。これは中津高校生同窓生のみならず、戦後新たな時代を築き上げていく上で意義のある、また心の拠り所となってきた言葉です。私たちが中津高校で学ぶ者はこの言葉を誇りとして大切に守ってきました。求め続けるべき私たちの理想と言っても過言ではありません。

しかしながら、生徒が推薦試験などで外に出かけていき自分の高校の校訓として説明するにはやや伝わりづらい点があるという指摘もありました。そこで、前校長の田中栄吉先生が百十周

年を機会として正式に校訓を定めてはどうかという提案をされ、校訓制定委員会を立ち上げ、そこで検討することになりました。制定までの経過としましては、制定委員会が「校歌の中の文言を校訓とする」という方針が定められ、ホームページや同窓会新聞、旭陵十七号で校訓案を公募いたしました。校歌の中の文言という制約があったためか、応募数は多くはありませんでしたが、いくつかの案が寄せられました。その案を受けて、同窓会の方々の意見も伺いながら、学校側で原案を作成し、校訓制定委員会に提案、承認され、職員会議で正式に校訓として制定されました。

校訓「自由と個人の尊厳・思索と自己の完成」は、今まで中津高校が大切に心の拠り所として守ってきた「自由と個人の尊厳」と、これから新しい時代を切り

開く人として大切であると思われ、思索と自己の完成」の二つの文言を合わせる形で制定いたしました。中津高校も百十年の波歴史の中でさまざまな時代の波を受けてきました。しかし、特に戦後の新たな価値観を踏まえて「自由と個人の尊厳」の言葉は私たちの精神的支柱として受け継がれてきました。個人の尊厳よりも全体の利益が優先される

ような傾向が強まる中で、「自由」と個人の尊厳」という言葉は益々重みをもつてくると信じています。また、これからは、情報化が進み、グローバル化が進み、世界を席巻する時代であります。世界の距離は驚くべき速度で縮まっていくことは間違いないあります。しかし、他方では異文化との葛藤と衝突も激しくなっています。そうした時代を生きるうえで、我々に求められることは、思索し、自己のアイデンティティを確立し、自己のアイデンティティを確立することではないでしょうか。何が正しいのか、何を行うべきなのかを思索し、自己を完成し、自分自身に責任を持ち行動する人になってほしいという願いを込め、ここに「自由と個人の尊厳 思索と自己の完成」を校訓として定めました。

この校訓を胸に母校中津高を同窓会としても支援してまいりたいと思っております。

業に際して、皆様よりたくさんの寄付をいただきました。寄付金合計は二千二百五十三万九千円となりました。皆様のご厚志によって中津高校同窓会が成り立っていることを実感するとともに母校と同窓会のために一層の努力をしていかなければならないと思っております。

また、皆様からいただいた寄付金に対しまして、本来であればお礼状・領収証を送らせていただくべきではありませんが、郵送費用だけでも高額となるため寄付金を有効利用させていただくこと、また事務作業の簡略化の目的で振り込み証明書を領収証に代えさせていただくようお願い申し上げます。

今後とも中津高校同窓会にご理解・ご協力をお願い申し上げます。

中津高校同窓会事務局

百十周年記念事業
寄付金の御礼とお詫び

中津高校教諭
松木詠史
30回生

中津高校同窓会事務局

創立
百十周年
記念

ホームカミングデー

中津高校教諭
高田奈央美
56回生

去る十一月七日(土)に行われた百十周年創立記念行事の一環として、ホームカミングデイが催された。これは、卒業生の方々を母校にお迎えし、母校を懐かしんでもらうとともに、現在の中津高校を知っていただくための行事である。また、地域の方々にも本校を広く知っていただくために案内を出し、当日は卒業生の方だけでなく、地域の方々にも参加していただいた。ボランティアで集まった在校生が訪れた方々を平成二十二年に完成した新校舎の施設へと案内し、新たな中津高校の姿を見ていただいた。

校舎内には、在校生によつて製作された「中津高校の歴史」が展示されているコーナーもあり参加者の目を楽しませた。変わった中津高校の中にも、噴水

見学の最後には、中津高校キターマンドリン部によるミニコンサートも行われ、在校生の活躍を見ていただけだ。

参加者の方々からは「こんな校舎で勉強できる在校生の皆さんは幸せですね」「案内してもらえてよかったです。ギターマンドリン部のコンサート本当に感動しました。」などの声を聞いた。

ギター・バンドの演奏後の挨拶

創立
百十周年
記念

旭陵留学生との語らい

渉外部
小林 主殿

パネルディスカッション

百十周年記念行事「旭陵留学生パネルディスカッション」を、これまでの旭陵留学制度の成果を、地域と世界へ発信する好機ととらえ、多くの方の協力で無事終えることができました。以下にその概要を紹介します。

パネルディスカッションに先立ち、本校コンピュータ部作成によるスライド「旭陵留学十年のあゆみ」が上映されました。その後、現在カナダに留学中の二名(第一期・伊藤麻衣さん・太田ももさん)からのビデオメッセージが紹介されました。

パネルディスカッションは、司会の田島雅子さん(25回生、財務委員、中津川市教育委員、スパーバイザー)の中西哲彦氏(日本福祉大学国際福祉開発学部准教授の両名)で進行されました。まず五人のパネリストの紹介と近況報告がありました。西尾梨紗さん(苗木中・平成二十三年度出発・第七期・アメリカ合

衆国)は山口県で経済学専攻の大学二年生、西尾慶太さん(福岡中・平成十八年度出発・第二期・アメリカ合衆国)は東京の金融機関に勤務、西尾貴仁さん(福岡中・平成十八年度出発・第二期・アメリカ合衆国)は東京で金融機関に勤務、塚本友里恵さん(岩手県中・平成十八年度出発・第二期・イギリス)は埼玉で記者をしているとのことでした。片田雪心さん(第二期・平成二十五年度出発・第九期・カナダ)は三次在生として参加しました。パネラーとフロアーが一体となったリラックスした雰囲気の中でディスカッションが進んでいき、留学を通して可能性が広がったことや、英語の重要性などを現役生に真摯に語る姿勢が印象的でした。また各クラスから募集した質問でフロアーとのやり取りもあり、留学先での食の話、異文化体験について話題が進みました。

創立
百十周年
記念

記念演奏会

中津高校吹奏楽部 O.B.会長 岩本 隆明 (22回生)

「百十人吹奏楽団」による「交響詩中津川」。高鳴るや黎明の鐘、自由と個人の尊厳…なつかしい校歌もこの日だけは特別でした。一つ一つの音が幾重にも重なり織りなすフレーズ。いくつもの思い出が一つになってフレーズの中に織り込まれていく。感動の中、演奏会はいよいよ佳境へ…。



感動の「交響詩中津川」は113名の吹奏楽団で

吹奏楽部O.B.会は、七年前の第四十回吹奏楽部定期演奏会の折りに再結成され、吹奏楽部の支援や現役との交流会・機関誌発行等の活動を行って参りました。今回の演奏会は、部室改革の資金援助や新入生部員の発表の場として七年前に始めたO.B.と現役の合同コンサート「オータムコンサート」の一つの企画として考えておりましたが、計画が具体化する中で、中津高校同窓会から、中津高校創立百十周年の記念事業として実施することなどのお話をいただき、共



先輩達の話を実際に聴く生徒達

パネルディスカッションを終えるにあたり、パネリストが参加者、在校生へ向けて熱いメッセージを伝えてくれました。西尾貴仁さんは「英語を話す理由は、面白い事、楽しい事、可能性が広がるからです。英語を使うことで中津川と世界をつなげる仕事ができるかもしれないのです。ぜひ頑張ってくださいと思います。」と地域から世界へ発信をしてほしいという思いを込めてくれました。西尾梨紗さんからは「あなたが力を注ぎたいことが大切で、この気持ち、今の私の大学生活のすべての原動力になっています。」と大学生としての経験を述べてくれました。片田雪心さんは「誰にでも留学のチャンスがあると思います。ぜひ挑戦してほしいです」と留学への挑戦を訴えてくれました。

スパーバイザー中西氏からは、「本日の参加者のような素晴らしい若者を育ててくれたのは旭陵留学制度と中津高校の風土です。」と称賛の言葉があり、パネルディスカッションの終了となりました。

中津高校吹奏楽部 O.B.会長 岩本 隆明 (22回生)

しては、生徒の皆さんが百十周年を記念して取り組んで見えて「百十人プロジェクト」になぞらえ「百十人吹奏楽団」を提案、一年ほど前からO.B.会を中心に参加を呼び掛けるなど準備を進めてまいりました。果たしてこのような大吹奏楽団が実現できるか不安はありましたが、趣旨に賛同して集まっていたいたいた五十八名ものO.B.・OGの皆さんにも支えられて、演奏会を無事開催することができました。そして吹奏楽部一・二年生部員六十五名が加わり、当日の演奏者は、総勢百十三名の吹奏楽団となりました。大所帯ゆえに練習時間も思うように取れず、また、一か月前にも関わらず演奏予定曲の変更などもあり、不安を抱えての当日となりましたが、この日のためにスタッフとしても駆けつけにいたっていたO.B.・OGの皆さんにも支えられて演奏会を終えることができました。

演奏会には四部構成です。一・二部はO.B.現役生徒それぞれ

創立
百十周年
記念

芸術展を終えて

芸術展実行委員 田口 昌弘 (31回生)

八十周年より始まった記念芸術展も今回で四回目となります。過去に参加していただいた方の中にも、この世をさられた方や、ご高齢で参加できない方、住所が変わつてしまひ連絡が取れない方など多数いらっしゃり、一体何名の方が参加して下さるのだろうか、不安を抱えながら準備に入つたのが約一年前。今回は各自での搬入をお願いいたしましたので、遠方からの参加は正直難しいのではないかと感じておりましたが、思いもよらず遠方からも多数参加していただきました。参加人数四十七名、出品作品数六十二点という伝統に恥じない展覧会となりました。



前日の準備が終わって記念撮影



にぎわいプラザ入口の看板は、洞田和園先生の書

創作活動は大抵の場合とても地味で、自己をどう表現するか悩み、苦しみ、自己との問答を繰り返すものです。

高校の同窓会で芸術展を開催できるという高校は、全国的にも珍しく、中津高校がいかに多くの優れた芸術家を輩出してきたかがわかります。ですからこの芸術展は、誇れる中津高校の伝統なのです。

十一月八日(日)第二十二回旭陵ゴルフ大会が、中津川市茄子川のユウグリーン中津川ゴルフ倶楽部で開催されました。

例年、九月二十三日の秋分の日に行っていました。今年も創立百十周年の記念事業に合わせ、この日程にて行われました。例年、九月二十三日の秋分の日に行っていました。今年も創立百十周年の記念事業に合わせ、この日程にて行われました。

十一月八日(日)第二十二回旭陵ゴルフ大会が、中津川市茄子川のユウグリーン中津川ゴルフ倶楽部で開催されました。

例年、九月二十三日の秋分の日に行っていました。今年も創立百十周年の記念事業に合わせ、この日程にて行われました。



競技が終わり、憩いのひととき

卒業生
現旧職員

文庫紹介

- 「大学のウツ 偏差値60以上の大学はいらない」 KADOKAWA 山内大地 (47回生)
 - 「介護はつらいよ」 小学館 大島一洋 (14回生)
 - 「時間と学費をムダにしない大学選び」 中央公論新社 石渡領司、山内大地 (47回生)
 - 「THE学級マネジメント」 明治図書出版 長瀬拓也 (51回生)
 - 「学級経営・授業に生かす! 教師のための「マネジメント」」 明治図書出版 長瀬拓也 (51回生) 他共著
 - 「ゼロから学べる学級経営 若い教師のためのクラスづくり入門」 明治図書出版 長瀬拓也 (51回生)
 - 「あーじの文化 柘植洋三エッセー集」 柘植書房新社 柘植洋三 (12回生)
 - 「リフレーム 一瞬で変化を起こすカウンセリングの技術」 大和書房 西尾和美 (15回生)
 - 「地名由来飛騨・美濃」 まつお出版 山内和幸 (18回生)
 - 「[Bijutsu no mori]2014 新年号」 美術の杜出版 高木孝雄 (定普3回生)
 - 「[Koromori]2014」 自費出版 平多宏之 (9回生)
 - 「[Bijutsu no mori]2012 SPRING」 美術の杜出版 高木孝雄 (定普3回生)
 - 「浮遊感歌集」 砂子屋書房 安江茂 (7回生)
 - 「糟谷磯丸伊良湖の歌ひり」 本阿弥書店 安江茂 (7回生)
 - 「ことば遊びの楽しさ」 砂子屋書房 安江茂 (7回生)
 - 「非営利と営利の組織理論」 勉社 村上綱実 (24回生)
 - 「長村教授の正しい添加物講義 ウェッジ」 長村洋一 (12回生)
- 出版情報をお寄せください (順不同)

中津高校の一年

中津高校教頭
宮田 大介

中津高校同窓会のみならず、お元気で過ごしてのことと存じます。創立百十周年記念事業に際しましては、多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。紙面をいただきましたので、平成二十七年の中津高校の様子を、行事や取り組みにおける生徒の姿を中心にお知らせいたします。

中津高校のこの一年

四月。新年度となり、本校卒業生第30回生でもある瀧澤康雄校長先生が新たに赴任され、創立百十周年となる平成二十七年はスタートしました。二百名の新入生を迎えた始業に際し、校長先生は「課題を発見する力、解決する力、文化的な背景が異なる人々を受け容れる力、コミュニケーション能力が求められている」と話され、「そのために様々な活動を通じて『考える』ことを大切に、その考えを語ることができる人になるため、広く学んでほしい」と話され

第II期旭陵留学の現状と展望

第II期旭陵留学の現状と展望

この旭陵留学プログラムは、全国でも稀有な本校同窓会による「海外留学奨学金制度」で、創立百周年記念事業の一環として平成十七年より開始されました。その趣旨は国際社会を見通すグローバルな視野を持ち、地域においてローカルに活躍する人材の育成を目指す「グローバル」を合言葉として開始されました。現在よく耳にするこの考えですが、本校同窓会はずでに十年以上前から実践していることは、称賛に価すると思います。平成二十年度までの第一期として、一年間に最大六名、五年間で三十名の生徒に奨学金を給付しました。派遣国は、アメリカ合衆国、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの英語圏五カ国で、三ヶ月または一年間滞在するプログラムとなりました。平成二十一年度の第二期からは、一年間に最大二名の給付となり、平成二十七年夏の出発者まで含め、総

旭陵留学生同窓会総会に参加

平成二十七年五月の同窓会総会に旭陵留学生が昨年度に続き参加しました。今年度は現役生で平成二十六年夏に帰国した九期生片田雪心さん、平成二十五年出発、派遣国カナダが発表。留学の経験を通して学んだことや留学でできたことへの感謝の思いを述べてくれました。

新しい動き―地域で活躍する旭陵留学生

平成二十七年七月、中津川市中山道歴史資料館において「中津川宿・馬籠宿等における観光ボランティア企画会議兼第一回研修会」に参加しました。出発直前の伊藤麻衣さん(第一期生、派遣国・カナダ)と太田ももさん(第

ました。合格祈願のために北野天満宮を訪れた班もありました。往復のバスの車内では、旭陵祭で取り組む演劇について検討をするクラスもあり、旭陵祭にかける意気込みは、流石に最上級生です。

六月実施になった七年目。初夏に行う「旭陵祭」も、中津高らしさの表れる行事です。文化祭ではクラスが丸になつて演劇・演説・展示に取り組む文化系部活動もまた、校内での絶好のアピールの機会として、日頃の取り組みの成果を発表しました。

体育祭では、各軍とも応援団を中心に、勝利を目指して声をあげ、胸を張り、全力を尽くす姿がありました。やらなければならぬことが、沢山あつて大変ですが、文化祭と体育祭の両方に前向きに取り組むこともまた「文武両道」と言えるのではないかと考えています。

旭陵祭全体のフィナーレとして、今年は生徒会の発案で「後夜祭」が行われました。往年の「フアイヤースト」を想起される

また、文化祭に向けて「百人プロジェクト」の一環の「百人インタビュー」として、地域の前に、中津高校に対する思いや中津高生に期待することを尋ねて回る取り組みをしました。地域の方の温かい目や、将来、地域を支えていく本校生への期待の大きさがよくわかりました。

留学を終えて

私の中間に起きた変化

二年生対象には十四名の保護者と生徒が集まり熱心に耳を傾けていました。昨年度より五月第二日曜日に開催し参加人員が増加しました。現在十名の受験者を選考中です。

創立百十周年に向けて

別掲の百十周年記念行事「旭陵留学生パネルディスカッション」を、地域と世界へ発信する好機ととらえ、多くの方の協力で無事終えることができました。留学での貴重な経験や、現在の高校生に伝えたいことなどがテーマとなり、参加者に好評でした。創立百二十周年へ向けて新しいスタートとなつたのではないのでしょうか。

毎朝旭陵留学生の無事故と健康を祈る日々を送っています。幸い、中津校生の資質の素晴らしいと、関係者の努力、家族の思いがあつてか、開始から今日まで事故もなく、全員が無事に留学生活を終え、それぞれの舞台で活躍してくれています。将来、この旭陵留学生から、世界で、また地域で活躍する人材がひとりでも多く輩出できればと思っています。

平成二十七年旭陵留学生選考の経緯

平成二十六年度募集説明会(一、

方もいらつしやるでしょうか。全校が幾重にも大きな輪になつて、フォークダンスを踊りました。中津高校の一体感がより強まりました。



また、文化祭に向けて「百人プロジェクト」の一環の「百人インタビュー」として、地域の前に、中津高校に対する思いや中津高生に期待することを尋ねて回る取り組みをしました。地域の方の温かい目や、将来、地域を支えていく本校生への期待の大きさがよくわかりました。

入れ替わるように二年生の女子二名が留学に出发しました。同窓会のみならずのご理解とご支援で、この「旭陵留学」が実施できています。本当にありがとうございます。

留学生特別寄稿

留学を終えて

私の約一年間の留学生生活が六月末に終わりました。はじめのうちは長いと思つていたこの期間も、いま思つてもとても短いものだったと感じます。

今から思うと少しおかしいのですが、出発前は留学そのものの帰国後のことで悩んでいました。私は帰国後、一学年下の学年に復学することにしたので、帰国後に彼らとうまくコミュニケーションをとるのか、また、彼らが自分を受け入れてくれるのか不安でいっぱいでした。また留学先のカナダでも同様に不安でした。そのため、特に欧米の文化に興味を持っていた私は、何かコミュニケーションをとるときにおけるヒントが得られないかと考えました。日本とカナダの差異に着目し、比較することをおぼろげに留学生活の軸にして過すことになりました。

この一年間、特に現地の学校に通つて一ヶ月の間に、私のな

募り、市内の代表的観光地である馬籠での通訳ボランティアを行いました。初めは時間が合わず、外国人の姿が予想以上に少なかつたりしましたが、地元の方たちの温かい支援にも支えられて、試行錯誤しながら十一月までに合計四回実施し、延べ八十六名の生徒が参加しました。課題も多いが、継続、発展、定着させていきたい取り組みです。



高校生活の中で生徒にとつては「最大の行事」と言つてもいいのが、二年次の十月に、沖縄に行く研修旅行でしょう。本年度は

十月二十七日(火)から三十日(金)に三泊四日で実施しました。全日程を通じて好天に恵まれ、予定していた研修を全て体験することができました。

他校の修学旅行生と一緒になつた「ひめゆりの塔記念資料館」「沖縄県平和祈念資料館」で、中津高生は、展示物・説明の一つ一つの前で足を止め、おそらくは胸を痛めながら見入つていました。多くの人が亡くなつた方マの中で説明をしてくださった地元のガイドの方や「平和講話」で講演をくださった講師の先生から「聞く姿勢が前向きで非常に良い。素晴らしい高校生だ」と褒めていただきました。どの場面でも中津高生の素晴らしい姿を再認識できた研修旅行でした。

またこの期間中には、一年次生が秋季研修、三年次生が球技大会を行いました。

十一月七日(土)明治三十九年中津町立中津高等女学校として開校以来百十年になるのを祝い、記念式典を挙行政したのが存じのとおりです。この百十周年を

私の中間に起きた変化

かていくつもの変化が起こりました。そして、そのどれもが私を人間的に成長させてくれました。この自分でも予想しなかつた変化についていくつか述べようと思ひます。

最も大きな変化は、現地の学校に通うことで、日本とは全く異なつた自己表現やコミュニケーションができるようになっていったことです。

現地の学校のシステムは「K-12」といわれる、幼稚園(保育園)児から高校三年生までの生徒約三〇〇人がひとつの同じ学校に通います。授業も自分が所属する学年とは違う学年の授業を進路や、やりたいことに合わせて選

機に、校歌の一節から「自由と個人の尊厳、思索と自己の完成」を校訓と定め発表しました。併せて「旭陵留学生」のパネルディスカッションとホームカミングデイを実施しました。生徒たちは、節目の年に在学し記念式典に出席できることを幸せに感じながら参加しました。

校外では中津川文化会館で吹奏楽部と同部OBによる演奏会にきわいプラザでの芸術展のほか、合同同窓会とゴルフコンペも行われました。

一月。大学入試センター試験がありました。

二月。英語の授業改善についての地区拠点校として今年度も取り組んだとめとして、二月五日(木)に近隣の小中学校の先生にも参加を呼びかけ、研修会を開きました。「旭陵留学」と併せて「中津高校の英語教育」がさらに広く認知されるようになると中津高校はもっと伸びていくと考えています。

今後とも、母校中津高校に対してご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

は日本語と違い、あまり改まった敬語を使うことが無く先生や年上の人たちともより気軽に話すことができるという利点がある。そのことからコミュニケーションの違いは、国民性や個人の性格から生じるものだけではないように感じました。日本で、目上の人たちの隔たりを作る「敬語」を使うことも、普段意識していない何かと関係しているのではないかと思います。

ウェイトリフティング部 頑張ってます!!

平成二十六年卒業生の活躍

平成二十五年三月に行われた第29回全国高等学校選抜ウェイトリフティング競技大会94kg級で青木達也はスナッチ103kg、クリーン&ジャーク133kg、トータル236kgで七位に入賞しました。二十六年度に入り県高校総体団体三位、個人では94kg級で青木達也が優勝しました。また女子でも58kg級で小原彩乃が優勝しました。

平成二十七年卒業生の活躍

平成二十六年三月に行われた第30回全国高等学校選抜ウェイトリフティング競技大会に二

定時制の生徒の活動

【部活動】

現在、定時制ではバドミントン部のみが活動しています。

バドミントン部の部員は、現在は男女一名ずつの2名です。基本的には授業の終わつた二十時四十分から二十一時四十分の一時間程度練習していますが、昼間に仕事をしていることなどもあり、それぞれが自分のペースで取り組んでいます。昨年度は四名で活動していましたが、仕事を増やすことが難しくなりました。このようにして参加人数が減っていくことは必ずしも悪いことではないと思います。一人ひとりがそれぞれの道でがんばってくればよいと思っています。そんな中、二年の北瀬君は入学してからバドミントンを始め、コッ

名が参加し、男子53kg級吉田旭が八位、女子75kg級熊谷鮎乃が三位入賞というすばらしい成果を上げることができました。県総体団体では二位、東海総体団体で六位となり、徐々に成果を上げています。

平成二十六年度から中津高校OBである私が顧問に就任しました。インターハイ優勝、ソウルオリンピック七位入賞の実績を持ち、現在小栗・川畑の両顧問とも全国大会優勝者が指導者である、全国にも数少ない練習環境の整った状況になっています。また中田高広先生も週に一度ほど練習をみていただいています。ウェイトリフティング部は現在一年生四名、二年生二名

つて活動ができています。この場を借りてお礼申し上げます。

《試合結果》

- ・春季東濃地区定通総体 五月十六日(土) 場所：中津高校男子シングルス 北瀬貴大 2回戦進出 丸山郁弥 第3位 男子ダブルス 北瀬貴大・丸山郁弥組 第2位
- ・岐阜県定通総体 五月三十一日(土) 場所：大垣市総合体育館男子シングルス 丸山郁弥 3回戦進出 北瀬貴大 1回戦敗退
- ・東濃地区定通秋季大会 十月十日(土) 場所：中津高校男子シングルス 北瀬貴大 第3位 女子シングルス 中尾彩美 1回戦敗退
- ・岐阜県定通秋季大会 十一月七日(土) 場所：大垣市総合体育館男子シングルス 北瀬貴大 1回戦敗退

【定通】とは「定時制通信制高校」のことで、バドミントンの場合東濃地区では中津高校の他に阿木高校と東濃フロンティア高校、岐阜県では東濃の3校を含め十二の学校が参加しています。



文責 小栗和成 34回生



定時制 バドミントン部



カレーの会

【文化祭「旭星祭」】

定時制では九月の終わりに二日間かけて学校祭を行っています。一日目の文化の部では、クラスごとに夏休み明けから約一ヶ月かけて準備した成果を発表します。今年度は、一年生は影絵劇「ブレーメンの音楽隊」、二年生はストリップモーション「絵とりしようぜ!」、三年生は「奇跡動画」、四年生は「夏の終わりの怪談・奇談」に取り組み、職員も「中津川太鼓」に挑戦しました。

当日は保護者の方をはじめ地域の方々など五十人以上の方に会場いただきました。文化の部終了後には、保護者の方々の協力を得てカレーライス会食会が行われました。発表の感想を述べ合うなどして、生徒たちにとって良い交流の場となったようです。二日目には芸術鑑賞の部として、「ジェリービーンズ」の皆さんのギター・マンドリン演奏を聴きました。普段あまり聞かないマンドリンの優しい音色に、心地よい時間を過ごすことができました。



文化祭 中津川太鼓

文責 奥村秀雄

特別稿 外からの中津高校

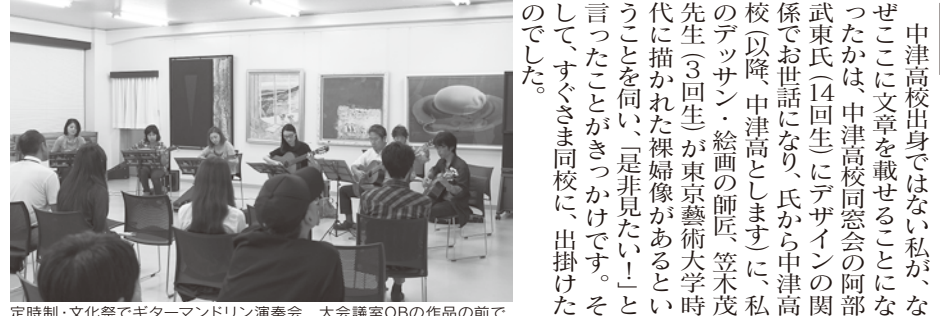
マドリッドコンプルテンセ大学大学院生 市川浩代

私はこの十ヶ月間、カナダの教育方針のもとで学び、教師と生徒たちのなんでも話せるようなつながりになっていきました。自然とわたしは教師という職業に惹かれ、わたしもカナダの学校の先生たちのような教師になりたいと思うようになりました。そして私が衝撃を受けたカナダでの授業のあり方を、将来自分がするであろう授業に少しでも組み込んで広めたいと思うようになりました。今まではつきりとした将来の夢や目標が持てずにいましたが、この留学生活の中で、現時点の話ではありませんが、将来の明確な目標が得られたと考えています。

学校以外の場でも自然に日本との差異を吸収するようになっていきました。家や近所、街中での人との関わりのおかげで感じた日本との違いに驚きました。カナダは様々な人種の人々が住んでいることはほんやりわかつてい

も関わらず、自らは近づこうとしない人がまだ多数派だと思います。ですが、私がいた現地の人々は、カナダ人であろうがほかの人種の人であろうが、見ず知らずの他人に気軽に話しかけます。実際私もこのような経験をしたことがありました。私の見た目はどうみても、英語を話せるか否か見ただけでは判断できないアジア系です。それに関わらず英語で街でカナダ人女性に道を尋ねられたり、見知らぬお年寄りに話しかけられ、世間話をその場で十分以上話していたこともありまし

分から発信していくことに本当の意味があると思います。私の学校は今年で創立百周年を迎えます。記念行事の中で私は留学の経験を発表することになっています。留学の成果を述べ、更なる留学事業促進につながるように語りたいです。また、私の市では外国人観光客数を増やすために観光案内や通訳のボランティアが必要だそうです。そして高校生の英語を実際に使う場を設けるために先日会議が開かれ、私も参加し実現に向け大きな一歩を踏み出しました。今年度は受験生なのでなかなかボランティアに携われる機会がないと思いますが、高校卒業後も、留学をして培った英語力を使って自分のふるさとに貢献したいと思っています。この留学生活はたくさんの人の支えがあったからこそ成り立ったものだと思っています。今後はその方々への感謝を忘れずに自分で見つけた目標に向かって頑張っていきたいです。



定時制・文化祭でギター・マンドリン演奏会 大会議室OBの作品の前で

中津高校出身ではない私が、なぜここに文章を載せることになったかは、中津高校同窓会の阿部武東氏(14回生)にデザインの関係でお世話になり、氏から中津高校以降、中津高としますに、私のデッサン・絵画の師匠、筈木茂先生(3回生)が東京藝術大学時代に描かれた裸婦像があるというのを伺い、「是非見たい!」と言ったことがきっかけです。そして、すぐさま同校に、出掛け

おきまして、筈木先生はもとより、花田勝太郎先生(13回生)、滝川英明先生(20回生)から多大なるご指導を頂きました。私が、中津高美術部員の後輩の一人であるかのように、温かく、そして厳しく、人的環境においても、また、学び舎としての空間において、こんな高校は他に無いのではないのでしょうか。それが、伝統、校風というものでしょうか。おそらくその伝統は、多方面において、現職の中津高の先生方の中にも、息づいていることと想像されます。

また、一方で、こうした恵まれた環境にあつたにもかかわらず、それにほとんど気が付かず卒業された中津高御出身の同窓生の方もおられることは事実です。しかし、いつの日か、この高校で多感なangarooの時期を過ごしたことが、その人生に何らかの結果をもたらすことでしょう。私は、恵那高校卒業後、愛知県立大学スペイン学科に進学、スペイン美術を学び、『ゲルニカ』その時代とヒカソの芸術をテーマとした卒業論文に取り組んだ



玄関先に展示の筈木茂氏(3回生) 芸大在学中の習作



大会議室前、廊下の展示作品

あの先輩！この後輩！

熊谷守一つけち記念館

文責 吉川 義康 (18回生)

小南 佐年氏 (18回生)

18回生でバスケットボール部OBの小南佐年さんが、私財を投じて付知町に「熊谷守一つけち記念館」を建設しました。この記念館は、小南さんが収集した付知町出身の洋画家熊谷守一（1880年～1977年）の作品九十七点と中津川市が運営していた「旧熊谷守一記念館」から寄託された作品及び遺品等を含めて五百点以上が収蔵されています。



オープニング テープカット

一階の第二展示室では、熊谷作品の特徴とされる赤い輪郭で対象物を縁取り、色彩が明快な油彩画「山形風景」や、輪郭が黒の「風若葉」など中期から晩年の作品が見られます。二階の第三展示室には最晩年に描いた油彩画や猫の墨彩画展等があります。また、展示室からは、画伯が油彩画に描いた「雨乞棚山」をはじめ、画伯が好きだった山並みが望めます。小南さんは熊谷守一の記念館を造るなら付知でと決めている。後生に残る遺産と信じている。未来に継承できれば」とその思いを熱く語っています。記念館は公益財団法人として運営され、小南さんが初代館長に就任されました。



第二展示室

あの先輩！この後輩！

カンツォーネ・日本の歌 勝野正彦コンサート開催

勝野 正彦氏 (13回生)

長年の夢であった自分のコンサートがいよいよ現実のものとなって近づいてきました。はじめの計画では2014年にと思っていたのですが、2015年の一月に、今年しかできないかなと思って決断しました。高齢にもなると自分のコンディションをどこにピークを持っていくかが大変ですが、丁度季節の良い十月十七日(土)に中津川文化会館ホールでのコンサート開催を決定しました。



ように歌えない時期もありましたが、六十歳を迎えたころにもっと歌いたいと思うようになり、一念発起して声楽のレッスに通い始めました。しばらく独唱をしていなかったのがかなり声が荒れていたと思います。それでも連続で通って歌ったことはありませんでしたので、かなりの不安もありました。それでも十年間のレッスンのお蔭で何とか歌うスタミナがついてきました。コンサートは私と、松原慎子さん(9回生私の姉)、伴奏者には前述の渡辺洋子さん(13回生)、可知静子さん(13回生)が出演者はいずれも高橋照子先生にご指導いただいた四人です。



出演の皆さんと

でもレッスンの成果が徐々に出て、年は取つてゆくが声の方は少しずつ出るようになってきました。自分の演奏会を催すということは考えてみれば大変無謀なことですが、今まで十曲以上も連続で通って歌ったことはありませんでしたので、かなりの不安もありました。それでも十年間のレッスンのお蔭で何とか歌うスタミナがついてきました。コンサートは私と、松原慎子さん(9回生私の姉)、伴奏者には前述の渡辺洋子さん(13回生)、可知静子さん(13回生)が出演者はいずれも高橋照子先生にご指導いただいた四人です。

コンサート当日は穏やかな好天に恵まれお客様も七〇〇人を超す大聴衆でした。最初の曲は「Ombra mai fu」。穏やかな木立を思わせる前奏が始まりこの中津川のような美しい木々に包まれた山並みのように…で始まり最後はアンコールの「帰れソレントへ」まで十五曲を歌い終えました。お客様からブラボーの声もいただき、また割れんばかりの大きな拍手を頂戴しました。同窓生の皆様も大変多くいらして下さいました。「コンサート大変楽しませてもらえたよ！と、皆様方の暖かい言葉をいただきました。私も楽しんで歌えました。本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

私は、中津高校時代、剣道部に所属し、溝端先生に教えていただきました。当時の剣道部はあまり強くない時期で、大会で勝ち進むようなことはありませんでした。それに甘えて厳しい剣道を知らずにいた私達は、なかなか強くなれませんでした。自分達の代になつてからは少し考えるようになり、稽古に臨む気持ちも変わつたように思います。もう少し早く気づいていれば、と思います。先生は歯がゆい思いをされながら、自主性に任せて見守っていて下さっていたのだと思います。

溝端先生は、剣道の指導において、決して押しつけることにはありませんでした。それに甘えて厳しい剣道を知らずにいた私達は、なかなか強くなれませんでした。自分達の代になつてからは少し考えるようになり、稽古に臨む気持ちも変わつたように思います。もう少し早く気づいていれば、と思います。先生は歯がゆい思いをされながら、自主性に任せて見守っていて下さっていたのだと思います。

恩師 追悼

一年生の英語の授業、Robert Browning の Pippa Passes の詩の1節、The year's at the spring (時は春) And day's at the morn; (日はあした) Morning's at seven; (あしたは7時) The hillside's dew-pearled; (片丘に露みちて)



恩師 追悼

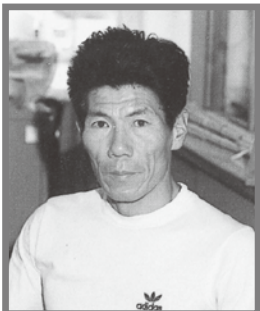
市岡 玉枝先生

早川章衛 (8回生)

この詩を朗読される先生の美しい声が、六十年過ぎた今も耳に残っています。特に「dew-pearled」の発音が、真珠のような響きとなって、先生を思い浮かべるたびに蘇ります。

私達が高校時代に英語を習った玉枝先生、菅井先生、間先生は藤村の「夜明け前」に出てくる、浅見景蔵、蜂谷香蔵の直系または親戚にあたることを最近知りました。高校時代にこれを知っていたら、もっと早く「夜明け前」を読んだのにも思っています。家系のことなど一切口に出来ない先生でしたが、あるホームルームの時間 モーパッサン

溝端英利先生への感謝をこめて



三年間何の戦績も残せず、強くも弱くもなれずに終わりました。先生のご指導の下剣道を嫌にならずに続けることができました。

進学の大学が決まって先生にご報告した時に、先生が「大学でも剣道をやれよ」とおっしゃいました。押しつけることをしなかった先生は遠慮がちにおっしゃったこの言葉は、私の中に強く残りました。

大学に入り、いろいろなサークルや部がガイダンスを行う中、剣道部をのぞいてみると、中は男子ばかりでむき苦しさ満点(実際は女子もいた)なかなか入っていき、勇気が出ず帰ろうとしたが、「ここで帰ったら、もう剣道部に入るチャンスはない。溝端先生をがっかりさせてしまう。」と会場の周りをぐるぐる回っていたところを、先輩に声をかけられ、中に入り入部することができました。

五十嵐 (旧姓 坂口) 真理子 (37回生)

先生が退職され中津高校同窓会総会の親睦会で中津に来られ、たおり、本陣の市岡家で再会し、鈴木先生が亡くなられた事、西東京市の大川先生の健在ぶりなどを話した時、玉枝先生との最後になりました。あの英語授業の時の端正な、若々しいお姿が今でもありありと心に残ります。

恩師 訃報

●浅野(旧姓市岡)玉枝先生 平成二十一年八月二十三日(逝去 八十三歳。昭和十六年から昭和十八年昭和二十年から昭和三十五年まで英語教師として在籍)

●伊藤信行先生 平成二十五年十二月六日(逝去 七十一歳。平成十一年から平成十二年司書として在籍)

●千村昌幸先生 平成二十六年二月二十日(逝去 八十六歳。昭和二十七年から昭和三十三年まで英語教師として在籍)

●市川 嘉先生 平成二十六年三月十六日(逝去 七十九歳。昭和四十九年から昭和五十八年まで国語教師として在籍)

●糸魚川忠平先生 平成二十六年十月十六日(逝去 八十七歳。昭和二十四年から昭和四十八年まで理科教師として在籍)

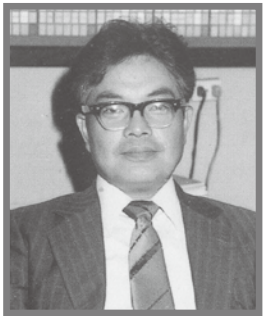
●溝端英利先生 平成二十七年七月八日(逝去 九十三歳。昭和三十二年から昭和五十九年まで社会教師として在籍)

●永田武男先生 平成二十七年七月八日(逝去 九十三歳。昭和三十二年から昭和五十九年まで社会教師として在籍)

ご冥福をお祈り致します

恩師 追悼

市川 嘉先生を偲んで



原 祐一 (29 回生)

先生とは年賀状のやり取りのみで一度もお会いすることがありませんでした。何とも情の薄い教え子だったと思います。

中津高校を卒業して三十八年になります。

卒業後、市川先生には何回お会いしたでしょうか。

私の記憶に強く残っているのは二度です。大学を卒業した頃に一度自宅に伺い、近況報告をしながら相談のついでにいただいたことがありました。二度目は、先生が定年退職された年に還暦のお祝いを兼ね同窓会をした時です。もう二十年も前のことです。その後、

恩師 追悼

千村昌幸先生の思い出：高校時代を振り返って：



私たちが9回生は1955年(昭和三十年)四月に中津高校の門をくぐった。当時はまだ高校三原則

で、私たちはこの歌詞の中にあるように「自由と個人の尊厳」思想と自己の完成を目指して旭ヶ丘に集い、学んだ。この校歌の基は新しい憲法の理念にあり、それを具現化したものがこの校歌なのだ。まさに戦争から解放され、新しい民主主義の世の中を創っていく人材の育成という夢と希望がこの校歌の中に込められているのだ。

①男女共学制②総合制③小学区制が守られていた時代であった。中津高校は一学年に農業科一、工業科二、商業科四、普通科六(進学課程三、教養課程三)の十三クラスという大規模校であった。もっとも、三原則の崩壊期にあたり、翌昭和三十一年に商業科が単独校として独立していった。さらに後年工業科が中津川工業高校へ、農業科が恵那農業高校へと独立し、中津高校は単独普通高校に様変わりしていく。それに伴い必然的に小学区制も廃止され、戦後の新しい教育理念の試みは崩壊に至る。

中津高校の校歌は新制高校の教育理念を高らかに謳い上げたものが、よりによって一年の時、そ

に進む方々のことをよく話すのでした。自分と関わった方のこともよく覚えていて、自慢そうに話しました。原さんの事も時々話しましたので、出会ったことのない方なのにも昔から知っていたような錯覚をしてしまいました。…と書かれてありました。こんな教え子なにして、感謝です。

私は、市川先生が担任をされた最後の生徒だったと思います。穏やかな人柄で、大きな声で叱られたことなどはありませんでした。野太い声でゆつくりと丁寧に授業をしてくださいました。時折、軽い冗談を交えた後にニコリと微笑む姿が思い出されます。

私が先生に大変お世話になったのは、大学四年生の進路決定の時です。高校の教員を志望していました。その年の採用試験は不合格でした。母子家庭で育てられ、卒業後の就職を大変楽しみにしていた母の気持ちと、あくまでも高校の

吉田 豊美 (9 回生)

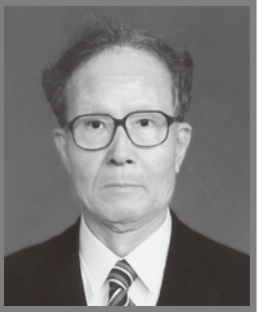
の英語の大川先生が担任であつた。大川先生の授業は教室に入ってくるなり、いきなり流暢な英語で生徒に話しかけられた。

“How are you? Mr.OO.” “Very well. I'm thank you And you?”

場合によってはさらに会話が続き、田舎の小さな中学校から出てきた私は、まるで異次元の世界に放り込まれたようなショックを受けた。

恩師 追悼

得意顔の糸魚川忠平先生を思う



吉川光彦 (5 回生)

昨年十月、糸魚川忠平先生の訃報を聞き、福岡市ウーワン斎場へ行きました。

ご子息が建築設計事務所をやつて居られるので、恵那の建築関係の人が何人か弔問に出席されていたのは理解できますが、中津高校卒業生で知った顔が見られなかったのは寂しい気がしました。

先生が定年になられたのは三十年近く昔の事になります。行年八十七才になりますので、校長

恩師 追悼

永田武男先生を偲んで



千村先生が言われたことで、いまだに覚えていることは、「戦争を知る者として、大きな土足で私たちが踏みしめる権力者は許せない。戦力の保持は憲法の理念に違反する」というような意味の言葉。こういう素直な先生の態度はわたしの性にあっていた。また、この言葉は、若いわたしの心に深く沁み、その後、60年の安保闘争、三井三池炭鉱の労働争議のデモ参加に明け暮れた学生時代へとつながっていた。

大森 あつ子 (19 回生)

退職後、年金者組合でお会いする機会ができたが、年老いてますますお元気で相変わらずの「千村節」を聞き、「我が恩師健在なり」とおもっていたものだ。その千村先生がお亡くなりになった。遂に今年2015年安保法制「戦争法」が成立した。憲法九条の存在がこれほど問われているときは今を置いてないだろう。草葉の陰で千村先生がどんなおもいでみておられることだろうか。

ンが中津川で行われ、「石中先生行状記」が読まれる等、健全な青春ものが流行っていました。なかでは憧れておりました。小説の人物像がイメージすれば石中先生ではなくて、「坊ちゃん」のヤマアラシのタイプであったと思います。

糸魚川先生は化学が専門であり、教子では元名古屋大学化学の教授植新さんが有名であります。我々は何故か松原弘先生から化学を教わり、糸魚川先生から幾何を教わりました。

糸魚川先生は部活ではサッカーの部長先生をやつて、元東京工業大学学長で平成二十七年文化勲章受章者の末松安晴さん、三重大学のラグビー坂倉さんを育てました。坂倉さんは、三重大学ではラグビーに転向されましたが、東海地区の大学では一番の名ラグビーでした。先生は専門外からも人材を輩出していらっしゃいます。

旭陵ゴルフコンペ

平成二十八年年度 総会

関西旭陵会

平成二十八年年度 総会

名古屋地区総会

様 歩んでいきたいと思ひます。どうか、見守り下さい。

中津高校 同窓会総会

中津高校定時制 同窓会総会

定時制四分校・本校 交流懇親会

旭陵ゴルフコンペ

関西旭陵会

平成二十八年年度 総会

名古屋地区総会

様 歩んでいきたいと思ひます。どうか、見守り下さい。

関東OB会だより

関東OB会のご報告

昨年は本部における創立百周年記念行事があったことと会場の都合もあつて、例年より一週間遅らせた十一月二十一日土曜日に、一ツ橋如水会館二階ホールにて年一回の懇親会を開催しました。母校からは頼綱学校長と同窓会・担当の松本先生、更に代表幹事の同級生である藤原先生が、夫妻で応援に駆けつけて下さいました。同窓会からは海外出張中の三尾会長にかわって常田副会長、母校が立地する中津川市からは青山市長と伊藤公室長、そして四名の中津在住同窓生まで遠路お出で頂いた方々をお迎えし、特一回から33回生まで出席しての総勢八十九名と盛況でした。22、23回生に幹事として「苦勞を掛け、場所設定から企画・運営まで意欲的に取り組んでくれたお陰で順調に開催できました。

物故者への黙祷のあと、開会に際してお礼のあいさつをさせて戴きました。報告事項として、旭

名古屋支部だより

平成二十八年の総会及び懇親会開催の準備状況について

竹馬の友との再会には、特に隔年の同窓会開催ですから、名古屋地区会はこの開催を待ちわびる多くの同窓生で、毎年総勢二百名の集いとなり、会場のルブラ王山千種区覚王山の大宴会場は大変な賑わいとなります。

卒業年次別単位(二十名前後で配属した各テーブルを設営していますから、同郷で同年代しか語れない懐かしい田舎弁が弾み、懇親会の二時間半の時間がホテル料理の美味さの堪能と歓談で、まったく時間を忘れさせられてしまいます。

高校生の時代のエピソードや、淡い初恋の思い出など暴露されて、高校時代が蘇るひと時でもあります。宴会の最後にピアノ伴奏で、全員が「故郷」校歌を合唱し、残響に名残惜しく、二年後の再会を誓い散会を致します。

毎回好評の、卒業生による「講演会」は、今年度の講師先生のプロフィールを紹介して、名古屋地

関東OB会会長 石黒廣洲 (13回生)



中津高校関東OB会

するための素早いスタートや関係者の協力が欠かせない様子であり、ふるさと応援隊の多くを擁する関東OB会への期待も口々にされました。乾杯のあとは宴会です。席からは同窓生と一緒にしながらの人数合わせ配分です。今回は料理が美味しかった様子であり、食べ放題に近い会館の名物カレーが準備され、持ち込んだ三蔵の地酒も飲み放題の気分にはさせるが、如く並ぶ一升瓶が心強い味方です。宴席が盛り上がり、つて来た頃を見計らって頼綱学校長のご挨拶があり、学校や現役高校生、同窓生を紹介しながら記念行事を取り組んだ校訓が制定された事に触れられ、「自由と個人の尊厳・思索と自己の完成に決まった」との説明がありました。卒業しても一生胸に刻むべき御馴染みの良い言葉がセツトになったと

の印象を受けたものです。続いて九月にオープンした「熊谷守一」つげ記念館に、館長で出資者の小南氏から紹介があり、また、緑ある人がふるさとを応援する、地方創生のお手本と理解しました。私も先日同級生を誘って訪れたが、同行者が口を揃えて素晴らしい美術館と評しています。皆さんもどうぞお楽しみ下さい。そしてふるさと繋がりですが、恒例となった御取り寄せ名産品の抽選会です。待つてました。飛び入り景品も多く今年は空手道無しの参加賞もあり、更に栗のお菓子や菊牛蒡の即売会も好評で牛蒡が売り切れ御免状態になりました。喜ばしくも残念なことではありましたが、御開きの前に、来年以降の幹事紹介があり、25、26、27回生が三年間当番を務めてくれることになりました。継続は力なり。皆さん平成二十八年十一月六日(日)如水会館を予定に入れて頂ければ幸いです。中津川からの応援も大歓迎です。では、十一月にお会いしましょう。

平成二十七年

中津高校同窓会総会

去る平成二十七年五月九日(土)に例年通り、中津高等学校同窓会総会並びに懇親会が開催されました。三尾義彦同窓会長、頼綱新校長をはじめ、各支部代表、本部役員・理事、一般会員の方々の約四十名の参加がありました。同窓会総会では、今年度迎える百周年記念事業について事業概要説明と事業に関する提案や決定事項の確認が行われました。百周年記念事業に関する寄附金募集が最大の課題となっており、これから式典に向けて募金活動に力を入れていくことが確認されました。校訓



懇親会では、吹奏部OBのバンドも

平成二十七年 中津高校定時制総会を開く

平成二十七年定時制同窓会総会が七月十八日(土)十一時より中津川市駒場の星ヶ見荘で開かれた。参加者は学校関係者を含め十八名と、総会案内の往復ハガキを出した約一五〇名の十分の一と少人数。西尾晃司副会長の司会で当日の総会は順調に進み、鶴飼俊之副会長の新年度事業計画提案で次

本校・分校交流会

平成二十七年は加子母が開催、四巡目に



平成二十七年の定時制本校・分校交流会が、加子母分校を幹事校として、十一月二十一日(土)十一時から、下呂御野の「神明山荘」において参加者三十一名で開かれた。この交流会は、分校と本校をつなぐ同窓会の主要事業で今回から四巡目に入る。



次回には付知分校が幹事校で、平成二十八年十一月に開催することを確認した。平成二十二年七月に設立した「定時制部活動」を応援する会へ多くの寄付金が集まった。同窓生は在校生の活躍する姿を見たのだ。

現在の一般内科・終末期医療・認知症等にも取り組み、日本整形外科学会・日本リハビリテーション学会・日本老年学会・日本プライマリケア学会に所属されておられます。

この機会に同窓生の皆さん！先生と、身体を悩みを気軽に相談できる又とない機会でもありますから、ぜひ参加下さい。

一、期日 平成二十八年十月八日(土) 一、会場 ルブラ王山 一、講演会 午後一時受付 開始一時三十分 一、懇親会 三時十分 終了(午後六時十分予定)

一、会費当日徴収 男性一万円 女性八千円 ※「旭陵」の紙上をお借りして地区会には、この地区の方でなくても参加できますから、ぜひ参加をお待ちしています。

関西旭陵会 加藤紘一 (10回生)

関西支部、この十年

本校での百十周年記念関西連行事も、関係の皆様のご尽力、多くの皆様の参加で無事終えられました。母校の長い歴史を皆様で慶び祝うことができたことは、誠にめでたく幸いなことと思います。今後も母校が特に地域の中心校としての歴史をつなぎ、社会にそして中津川に貢献できる有為な人材を育てる場として、確かな歩みを続けて行ってくれることを切望しています。

この節目の年を機に、関西支部のこの十年を振り返ってみました。十年前、本校が百周年を迎えようとするのに応じて、それまでしばらく中断していた関西支部としての活動を再開することとしました。新たに世話役を定め、会員に呼びかけ、関西旭陵会として再スタートの総会懇親会を開催したのは平成十六年のことでした。それ以後は毎年活動を開

22回生(昭四十六)学年同窓会

十二月十七日(金)～十八日(土) 洞田了一 (22回生) 初めての宿泊ありで、同窓会を行いました。夕方、六時四十五分からパーティーが、三十名参加で始まり、自己紹介や近況報告、懐かしい今だから話せる真実等々、話題満載、共に笑顔、笑い声が溢れる大盛況でした。特に近況報告では、「黄金の日々」という意味深なキーワードで盛り上がり、また、さすが中津高校の卒業生、面白可笑しくなおかつ理路整然と話し、力みもしないでにこやかに話しながらも皆を話題の中に引き込む姿に出会えました。

自由と個人の尊厳、思索と自己の完成、昼夜を止めざる流動。新たな世の柱となる人々が人を育て、育つ。改めて母校の素晴らしさを感じることでできた同窓会になりました。その後、大部屋に移り、二次会が時間と体力の許される限り続き、更に楽しく人生を歩む意欲や方策、大いなるエネルギーを満たし合い有意



2015/11/27 よんろく金



2015/10/25 猿沢の池

十五日に実施しました。当日は中津川からの参加もいただき、地元ガイドに案内してもらい、式年遷宮を終えたばかりの春日大社を見学拝観、奈良公園内の散策、猿沢の池などを巡り、ホテルサン

14回生DEFクラス会

第十五日(土) 洞田了一 (22回生) 初めての宿泊ありで、同窓会を行いました。夕方、六時四十五分からパーティーが、三十名参加で始まり、自己紹介や近況報告、懐かしい今だから話せる真実等々、話題満載、共に笑顔、笑い声が溢れる大盛況でした。特に近況報告では、「黄金の日々」という意味深なキーワードで盛り上がり、また、さすが中津高校の卒業生、面白可笑しくなおかつ理路整然と話し、力みもしないでにこやかに話しながらも皆を話題の中に引き込む姿に出会えました。

自由と個人の尊厳、思索と自己の完成、昼夜を止めざる流動。新たな世の柱となる人々が人を育て、育つ。改めて母校の素晴らしさを感じることでできた同窓会になりました。その後、大部屋に移り、二次会が時間と体力の許される限り続き、更に楽しく人生を歩む意欲や方策、大いなるエネルギーを満たし合い有意



中津高校DEF14回生古希同窓会

ら内容を一新しています。これに伴いアドレスも変更になっていますのでご注意ください。(変更後アドレス) <http://kansaiyokuryo.network.jp>

百十周年は、当支部活動でも節目としてとらえたいと思います。平成二十八年度は総会懇親会の年、七月初めに開催の予定です。この場において会の活動運営のあり方などを全面的に見直し、関係の皆様、特に六十代以下の年代で、これまで参加いただくことができなかった会員の皆様には、是非新たに参

12回生・合同同窓会

百十周年記念日を翌日に控えた十一月六日、十二回生は土木・建築・普通・教養・家庭科の二回目の合同同窓会を、本曽路で開催した。幹事の不手際で、開催時間を夕方にした結果、百十一名が集まった。四年前の一回目より参加者は少なかったが、卒業以来初めて参加したという同窓生も交えて、和やかに懐かしき時を忘れて歓談に耽った。

全体より一日早く、「自由と個人の尊厳・思索と自己の完成の新しい校訓を披露し、制定の過程で十二回生の力が大きかったことを紹介した。各科ごとに同窓会係が選出されているので、これからは各科ごとでも互同でも、いつでも同窓会が出来るようになったことを喜び合っ



中津高校昭和36年卒業12回生 第2回合同同窓会

百十周年にちなんで 百十人以上34回同窓生を集めよう プロジェクト達成!!

昭和五十八年卒 第34回同窓会に寄せて 図り、一二名の出席者と四名の恩師(加藤充則先生、梅村薫先生、三宅則英先生、中田高広先生)を合わせて二六名で行うことができました。受付が始まってから懐かしい顔を振り返っていました。高校のアルバムをスライドに流すなどあつという間の二時間でした。二次会にも七十二名が参加するなどの盛況ぶり、次回五十五歳の時にという目星がつけました。

29回生(昭五十三)同窓会

母校の創立百十周年を記念し平成二十七年正月に、二十九回生(昭和五十三)卒業生は二度目の同窓会を開催致しました。多くの先生にも列席頂き、また遠方からも仲間達が駆けつけてくれ大いに盛り上がった同窓会になりました。さて我々二十九回生は、軟式野球部の全国制覇に代表されます様に、文武両道を地でやっていった年代と言える、ご承知頂けるかと存じます。同窓会開催にあたりホームページを制作し参加者を募り、さらに当日の写真も閲覧出来る様、今らしい工夫も致しました。

人口減少の中、街作りにおいて教育の場は非常に重要です。中津川において中津高校はその点で最も重要な位置に有ります。母校が今後も素晴らしい学校で有ること、同窓生の誇りで有り続けることは、将来の中津川にとっても間違い無く必要と



中津高等学校29回生同窓会



小栗和成 (34回生)

我ら、30回生 学年同窓会開催

松木詠史 (30回生)

去る九月五日(土)に「我ら中津高校30回生として、昭和五十四年卒業、第30回生の学年同窓会を、パルティール中津川にて行いました。急な計画にもかかわらず一〇五名の出席があり、さらに加藤忍先生、中田高広先生、林英之先生、安田昌治先生の四名の恩師の先生方にも出ていただき、総勢一〇九名の参加でした。

第30回生の学年同窓会は今回が初めてで、高校卒業以来、初めて出会う人もいて、思い出と懐かしさを肴に酒を酌み交わし、大いに盛り上がりました。今回学年同窓会を企画することになったのは、中津高校百十周年記念の年であることと、今年四月に中津高校に赴任された頼瀬雄校長が我が30回生の出身であることがきっかけとなり、日下部誠君を中心とする有志幹事によって企画されました。

当日は、野球部国体優勝当時の映像や懐かしい写真などの上映が行われ、よき青春時代を懐かしく思い出することができました。つら



第25回生 (昭和四十九年卒) 還暦同窓会開催される

水野賢一 (25回生)

平成二十五年九月二十八日、パルティールにて、昼二時より還暦同窓会が開かれました。A組からG組までの七組の合計二九二名中九十一名の参加で賑わいました。ロンドンで暮らしている人や、タイへの出張で来られない人も居ましたが、大盛況でした。校歌斉唱に始まり、乾杯、各自のショートコメントであつという間に時が過ぎました。話足りない人たちは、二箇所に分かれて二次会へ行き、最後まで居た人は、十一時過ぎまで飲んでいました。

クラス幹事の十六人の人は、五回ほど毎月集まりお疲れ様でした。次回は五年後?でしょうか。みんな次回の再会を約束して別れを惜しみつつ、それぞれの生活に戻っていき



24回生還暦同窓会

土岐正紀 (24回生)

還暦を迎えた24回生、昭和四十八年卒業の同窓会が一月三日、中津川市手賀野のパルティールで開かれた。参加したのは存命する三六人中一〇六人。卒業以来四十二年ぶりの再会という人もおり、幹事が用意した旧姓入りの名札で名前を確認しながら旧交を温めた。

正月の雪が田畑を覆い、青空に雪化粧した恵那山が映える。まばゆいふるさとの光景は変わらないが、久しぶりに出会う人には歳月のかげりが、「えっ誰だっけ?」「うそー、太ったねえ」と互いの健康を確かめた。

写真撮影の後、三好教一さんの司会で懇談会が始まり、加藤郁子さんが乾杯の音頭をとった。アルコールが入ったあとは「俺の好きだったあの子どうした?」「なによ、すっかり薄くなったやっ」と遠慮なく。男女仲良く、テーブルを行き来して杯を重ねた。

小川裕さんが喧嘩の中で堂々とリーダーを演奏し、中津高校同窓会副会長の加藤良一さんの案内で百十周年記念行事への寄付(九万八千五百七十七円)も行った。中締めには全員で校歌を斉



創立百十周年記念 合同同窓会 パーティスナップ

2015.11.7
パルティールにて



編集後記

編集委員長

吉村美津子 (24回生)

「おはようございます。駐車場はこちらです。」と、大変爽やかな生徒さんの声の誘導から始まった百十周年記念事業。朝から夜までの長い一日でありましたが、至る所で生徒さんの爽やかで、きりっとした態度に出会ったたびに、編集委員の仕事をしていなければこの場に立ち会えないし、素晴らしい後輩らに出会う事ができなかったという感謝の思いで一杯になりました。

この十年、若い同窓生の皆さんに「旭陵を見てもらいたい、参加して欲しい」と願って活動して参りました。若い方の同級会・同窓会の原稿の投稿も年々増え、感謝しております。また、中津高校を支える諸先輩方の母校を想う熱き思いと深き、今回の大同窓会や各支部にお邪魔させて頂き感じる事ができました。「旭陵もその時代にあった内容、やり方で作成されていくでしょうが、ここに集う方々の中津高校を愛する思いは永遠であると思います。熱く、深い思いに触れた機会を頂き感謝申し上げます。有難うございました。」

・同窓会ホームページは <http://kyokunyo.jp/> kyokunyo@takenet.or.jp FAX 0573-65-2721 <http://school.gifu-net.ed.jp/nakatsu-hs/>

・同窓会ホームページは <http://www2.biglobe.ne.jp/~HICUBE/nakatsu/>

・関東OB会のホームページ <http://kansaiyokunyo.mnetwor.jp/>

ホームぺージ委員長 松田幸博 (33回生)

昨年十一月七日に開催されました、百十周年記念合同同窓会の担当をさせて頂きました。ご参加頂きましたOB、OGの皆様、ありがとうございました。ホームページ委員会とは関係ありませんでしたが、協力頂きました合同同窓会実行委員の皆様のご協力のおかげで、無事盛会の内に終わることが出来ました。特に吹奏部OBの皆様の演奏では大変盛り上がり、参加者一同とても良い時間を過ごすことが出来たと思っております。この場をお借りし、心より御礼申し上げます。

ホームページ委員会としては、特に目立った活動はありませんでしたが、今後も旭陵会の事業や行事、皆様へのお知らせなどを掲載してまいりますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。



編集委員

- | | |
|-------|---------------|
| 顧問 | 三尾 義彦 (12回生) |
| 常任 | 順子 (14回生) |
| 編集委員長 | 佐藤 和男 (定15回生) |
| 編集委員 | 吉村美津子 (24回生) |
| 編集委員 | 松田 幸博 (33回生) |
| 編集委員 | 梅村 薫 (12回生) |
| 委員 | 阿部 武東 (18回生) |
| 委員 | 吉川 義康 (23回生) |
| 委員 | 長尾 浩一 (24回生) |
| 委員 | 朝日美智子 (25回生) |
| 委員 | 山田 節子 (27回生) |
| 委員 | 吉田 真 (27回生) |
| 委員 | 伊藤 広忠 (28回生) |
| 委員 | 野村 充久 (28回生) |
| 委員 | 尾関 明久 (35回生) |
| 委員 | 波多野大輔 (48回生) |
| 委員 | 石原 豊 (49回生) |
| 委員 | 吉本 龍司 (52回生) |
| 教員 | 藤原 高 (23回生) |
| 教員 | 松本 詠史 (30回生) |
| 教員 | 高橋 俊和 (32回生) |
| 教員 | 小栗 和成 (34回生) |
- 発行 平成二十八年三月
岐阜県立中津高等学校同窓会
〒508-0001
中津川市中津川一〇八八の二